メータオ・クリニック支援の会（ＪＡＭ）
会報メール　第 123 号
〔2020 年 12 月発行号〕

ＮＰＯ法人メータオ・クリニック支援の会（JAM）支援者の皆様

いつもご支援していただき、誠にありがとうございます。
JAM 会報メール第 123 号をお送りします。

JAM は 2008 年 3 月に発足された NGO です。ビルマ／ミャンマーからタイへ貧困や戦火を逃れてきた人々の病院、メータオ・クリニックの活動を支援する目的で設立されました。

支援者の皆様へ JAM の最新の活動を２カ月に一度、会報メールにて発信しております。
今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

＜目次＞　　〔ページ〕

メータオクリニック　オンライン報告会のお知らせ

賛助会員の皆様へ　会員更新のお願い

国際保健医療協力の中で（47）

国内から

編集後記

次号の予定

メータオクリニックより

新型コロナウィルス感染症の緊急支援に関するオンライン報告会のおしらせ

日時：2021 年 1 月 30 日(土)17 時~18 時半
場所：Zoom によるオンライン開催

メータオクリニックの現状、新型コロナウィルス感染症対策の現状をお伝えします。
コロナ感染症の緊急支援に関した感謝を、現場よりお伝えしたく、
メータオクリニック院長のシンシア医師、小林代表よりメッセージがございます。

賛助会員の皆様、お時間が許されましたら、ぜひご参加下さい！
詳細は、追って Web にて発表いたします。
https://japanmaetao.org/

お申込みは、support@japanmaetao.org　まで。

件名に【オンライン報告会申し込み希望】、本文にはご氏名を記載し、お申込みください。
追って参加用 URL を送らせていただきます。

JAPAN ASSOCIATION FOR MAE TAO CLINIC

賛助会員の皆様へ　会員更新のお願い

平素よりメータオ・クリニック支援の会（JAM）の活動に深いご理解とご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。この度、賛助会員の皆様へ会員の更新をお願いしたく、ご連絡いたします。

当会は賛助会員の更新時期を年末に揃えさせていただいております。今回、**令和元年７月～令和２年６月まで**にご入会および更新してくださいました皆様へご案内させていただきます。

これまで JAM の活動を応援してくださり、誠にありがとうございました。引き続きご支援を賜りたく、ご賛同いただける方は下記の要領にて会員更新の手続きを宜しくお願いいたします。

更新の対象となる皆様には、年内に JAM オリジナルカレンダーと共にご案内の文書を郵送いたします。ご不明な点は、事務局（support@japanmaetao.org）までお問い合わせください。

更新の対象となる方：令和元年７月～令和２年６月までに入会および更新いただいた皆様
会員期間は令和２年１２月末をもちまして終了となります。
更新いただける場合は、お手数ですが令和３年１月末までに手続きをお願いいたします。
更新後の会員期間は**令和３年１２月末まで**となります。

すでに会員期間が過ぎてしまった皆様におかれましても、新たに賛助会員としてご支援いただけましたら大変有り難く存じます。手続きの方法は同じです。どうぞよろしくお願いいたします。

なお、更新を希望されない方につきましては、手続きはご不要です。またご支援いただける機会をお待ちしております。

賛助会員 更新手続き（年会費入金）の方法について

■下記の年会費をお振込みください。

ホームページ（www.japanmaetao.org）から**クレジットカード決済も可能です。**

「あなたとできること」→「賛助会員になる」の下「クレジットカードによるお申し込みはこちら」へお進みください。

＜年　会　費＞　一般会員：　３，６５０円／年
学生会員：　１，８２５円／年
法人会員：３６，５００円／年

＜振込先口座＞
ゆうちょ銀行（銀行コード 9900）
支　店　名：〇一八（ゼロイチハチ）
口座名義：NPO 法人 メータオ・クリニック支援の会
（カタカナ）　トクヒ）メータオ　クリニックシエンノカイ
口座番号：10140－8960841
＊他行からのお振込みの場合　普通 0896084

（写真：渋谷敦志氏）

※ 当会が入金の確認をもって手続き完了となります。メールにてお知らせいたします。

■注意事項
・住所、氏名、メールアドレスに変更がある場合、振込名義がご本人でない場合は、事務局（support@japanmaetao.org）までご連絡ください。
※ 期限を過ぎてからご入会される場合は、ホームページより新規の方法でお手続きください。

国際保健医療協力の中で（47）

【小林　潤】

生活の大きな変化を余儀なくされた 1 年でしたが、このなかでも継続して支援をいただいている会員の皆さまに深く感謝申し上げます。全ての会員の皆様が、少しでも幸せが見つけられるお正月になりますことを願っております。今年は例年実施してきた、会員の皆さまとの交流のイベントができませんでしたが、オンラインでの交流イベントを企画しております。来年も引き続きどうぞ御支援のこと宜しくお願い申し上げます。

令和 2 年 12 月 4 日　小林　潤

＊＊

いろいろな制限は大きいが、タイ入国の為に絶対的に必要な VISA 取得の新しい情報によって、有高氏の再派遣の可能性がでてきた。このチャンスを逃さず、メータオクリニックでの COVID-19 対策の準備を進めてもらいたいと強く思っている。災害と同じで感染症も、一度経験した機関、地域、住民は強いレジリアンス（跳ね返す力）を獲得すると言われている。今回ベトナムや台湾が見事な対応をして抑え込みに成功しているのは、2003 年に SARS が襲って大混乱におちいった経験をもとに対策してきたからこその成果とも言われている。

SARS とは COVID-19 と同じ新型のコロナウィルスによる肺炎で、2002 年 11 月に中国の広東省で原因不明の非定型型肺炎が報告されてから、アジアを中心に飛び火していった。ベトナムでは、WHO ベトナム事務所のカルロ医師が毎日のように患者が入院している病院に通い、情報を収集しベトナム保健省に世界に発信し続けた。しかしながら始めはベトナム保健省もこの感染症の重大性を認識できずに対策が数日後手に回ってしまったという、苦い経験を持っている。当時、私はタイのバンコク駐在で、カルロ医師とも国際会議で何回も同席し東南アジア地域の感染症対策についての協力を話し合っていた。それにも関わらず、私の認識もベトナム保健省と大して変わらず、始めは隣国でなにかが起こっているのかなというぐらいの極めて薄い認識であった。カルロ医師は自らが感染しバンコクに運ばれて入院となり、残念ながら命を落としてしまうことになってしまった。今考えると情けない限りであるが、私はこのことによって事の重大さを強く認識した。SARS は今でもなぜなのかわかっていなのだが、2003 年 7 月には終息宣言がだされ、この世からウィルスがみつけられなくなり、最後まで日本では一般にあまり強くその怖さは認識されなかったと考える。ほぼ同時期に新型コロナウィルスの MERS（中東呼吸器症候群）が中東から報告され、2015 年に韓国に飛び火して NEWS となった。これも日本には飛び火しなかったので、日本政府も国民も未知の感染症の怖さを認識せず、対策を強化しなかったことは、今反省されている。

今、メータオクリニックは、その状態に近いのかもしれないと危惧する。タイは海外からの移動を強く制限し、今まで強化してきた公衆衛生のシステムをフルに活動させてウィルスの封じ込めに成功している。熱帯という高温高湿度も影響していると考えられるが、フィリピンやインドネシアの都市部で蔓延してしまっていることをみると、タイの対策の素晴らしさは評価すべきで

ある。特に村落保健ボランティアの活動が地域住民と保健システムの連携をもたらして、適切な予防活動が住民自ら展開されていることが一つの要因として評価されることは私達国際保健の専門家として考えている。しかし、このウィルスは社会の弱いところをついてくることは、もう明らかだ。私のいる沖縄でも、実は GO TO キャンペーンによる旅行者からのウィルスの流入は初期の話であって、現在のクラスターは沖縄社会の弱者のなかでの感染が深刻であり、対応が必要になっている。インフォーマルセクターといって、正式に登録されないような仕事の人達である。夜中心のサービス業に従事する人達とその子供を含めた家族。また貧困層の高齢者施設にもウィルスは入り込んでしまった。

東京を中心として、在日外国人のコミュニティーがクラスターになり、そのコミュニティーの感染症に対する脆弱性が今さらながら注目されている。メータオクリニックは、タイ社会において、社会的弱者である在タイや、国境を越えてきた難民のための医療施設であり、且つ医療を超えてこれらの人達への社会的サービスや心のよりどころになっている。このウィルスが、脆弱性をついてくるまえに準備を進める必要はあるだろう。有高医師は帰国後、東京の医療施設で最前線の医師としてこの感染症と戦ってきた。彼女が現地にいって怖さを伝えて認識を高めるこれだけでも、準備に大きな違いを生むと確信している。

国内から

【淵上 養子】

いつも JAM の活動を応援くださっている皆様へ、心より感謝申し上げます。

JAM の設立当初から国内スタッフとして細々と長く関わらせていただいております淵上と申します。賛助会員としてご入会・更新された方、ご寄付いただいた方々へお礼のご連絡を差し上げたり、会員や寄付者様の情報をまとめたりすることが主な担当です。最近は仕事が忙しく、なかなか活動に参加できていない状況ですが、皆様からいただく温かいメッセージに励まされ、JAM スタッフでいられることに感謝しています。

さて、私は普段、保健所の保健師として働いています。3 年前から感染症担当に所属しており、今まさに新型コロナの対応で忙しい日々を送っています。今回の新型コロナウイルス感染症の流行により、これまでになく「保健所」が注目されるようになりましたが、実際に保健所の職員がどのようなことをしているのか、報道からはあまり伝わらないのでないかと思います。そこで今回、会報記事を担当する機会をいただきましたので、保健所で行われている新型コロナ対応についてご紹介したいと思います。

まず、電話相談の様子から。市民の方より、「症状があって心配だけれどどこの病院にかかればいいか？」「PCR 検査はどこでできるのか？」といった相談が今も頻繁にきます。また、「会社内で陽性者が出た。対応はどうしたらいい？」「友人からコロナ陽性と連絡が来た、検査は受けられるか？」といった接触者関係の相談が今はかなり増えてきています。

第 1 波と呼ばれる 3 月から 4 月頃の流行期には、発熱患者を受け入れてくれる病院が少なく、

JAPAN ASSOCIATION FOR MAE TAO CLINIC

また感染が疑われる患者の PCR 検査を行う病院が限られていたため、受診の調整に大変苦労しました。

今は感染疑いの患者が受診できる病院が増え、PCR の検体を直接検査会社に外注して数多く検査できる医療機関も増えたことから、受診調整がかなりスムーズになりました。当初行われていた PCR 検査は、医師が患者の鼻の奥に綿棒を差し入れて分泌物を拭うため、くしゃみや咳を誘発して患者の飛沫が周囲に飛びやすく、感染リスクの高いものでした。しかし、最近は唾液や鼻腔を拭った液を自分で採取することもできるようになったので、感染対策の設備が整いにくいクリニック等でも検査ができるようになったのです。

ここからは、新型コロナウイルス感染症と診断された患者さんへの対応について説明します。検査の結果、陽性と診断されると、感染症法上の扱いに沿って、まず医療機関から最寄りの保健所（管轄保健所と言われます）に発生届（患者の情報が記載された文書）が提出されます。FAX で届くことが多いのですが、検査件数の多い病院ではシステムに登録して保健所に報告するケースも出てきています。

陽性患者への対応は、基本的には居住地を管轄する保健所が行います。病状経過、現在の症状、基礎疾患の有無、同居家族の有無等を確認し、入院調整が必要か、ホテル入所が適切か等の判断をします。また患者が接触した部分の消毒を依頼します。

同時に接触者調査、感染源探索のための調査を行っていきます。予期せず新型コロナ陽性とわかり、戸惑う患者さんのお気持ちに配慮しつつも、感染まん延防止のため、根掘り葉掘りまるで取調べのように行動歴、詳しい接触状況を伺っていかなければなりません。患者さんとの信頼関係が損なわれないよう言葉を選びながら、注意して聞き取りを進めていきます。

患者さんの療養支援と同時に濃厚接触者の特定を急ぐのは、濃厚接触者がすでに発症している場合、さらなる感染を広げてしまうからです。新型コロナ対策が難しい要因の一つに、発症前から感染性があるという点があります。濃厚接触者が今は元気でも、明日発症するかもしれない…。もし発症するとその２日前から感染性があったことになりますので、感染した可能性のある「濃厚接触者」と特定された時点で不要不急の外出を控えるよう保健所から求める必要があるのです。

濃厚接触者の定義は、片手を伸ばせば届くくらいの１m 以内の距離で、マスク等の感染対策を取らずに１５分以上、会話したり一緒に食事を取ったりする状況を目安にしています。会食の場面は感染リスクが高いというのは、この基準に当てはまることからわかります。

接触者調査は「新型コロナウイルス感染症患者に対する積極的疫学調査実施要領」に基づいて行っています（国立感染症研究所のホームページに掲載されています）。もちろん、上記の基準だけではなく、換気や部屋の広さ、お互いの距離や位置、接触時間等の状況も判断材料にします。なかなかスパッと判断することは難しく、迷うケースが多々あります。

「濃厚接触者」＝「患者と最後に接触してから２週間自宅待機が必要」となるので、保健所の判断は責任重大です。必要以上に行動制限をかけてはいけませんし、判断が甘いと感染の連鎖を断ち切れないリスクがあります。患者からの聞き取りだけではなく、接触者の方からも話を聞いて客観的に判断することも必要です。

日頃からの感染対策、例えばマスクの着用、ソーシャルディスタンスを保つ、対面での食事を避ける、換気を良くするといった取り組みが取られていれば、濃厚接触者なしとなります。いつどこで感染者が発生しても、濃厚接触者を最小限にするために、これらの対策が必要です。

濃厚接触者が市外に居住の場合、その居住地を管轄する保健所へ対応を依頼します。職場が市外の場合、接触者調査そのものを管轄保健所へ依頼します。取り急ぎ口頭で伝え、追って依頼文書をメール等で送るのが一般的です。濃厚接触者が多いとそれだけ聞き取りや対応依頼に時間を要し、大変な作業になります。

もう一度、陽性患者さんの対応に話を戻します。入院先やホテル入所先が決まった場合、保健所が患者さんを搬送します。やり方は都道府県や地域ごとに違いがあるかもしれませんが、私の職場では、事務職員が運転し、保健師が患者と医療機関やホテルとの連絡調整を図りながら同乗します。職員は、感染対策のためのガウン、フェイスシールド等を身につけて自宅付近まで行くため、周囲に目立たないよう待ち合わせ場所にも配慮します。

患者さんへの対応は、感染症という性質上、人権への配慮がとても重要と思っています。感染したことは人に責められることではなく、大事なのは新たな感染者を増やさないこと。そうメッセージを伝えることで保健所の調査にご協力いただけるよう心がけています。患者さんに渡される公的文書は、とても事務的な表現です。「勧告書」なんて言葉、私は感染症担当に異動して初めて知りました。「入院勧告書」「就業制限」…どれも堅くて冷たい表現です。突然やってきた「感染者」という立場に戸惑う患者さんに寄り添えるよう、一言メモを添えて通知を送るなど、できることを心がけています。

先日、私が受け持っていた高齢の患者さんが新型コロナで入院中に亡くなられました。同居の家族内にも陽性者や濃厚接触者がいて、入院先の病院にかけつけられませんでした。そもそも患者さんは感染症病棟に入院し、家族に会えない状況でした…。

新型コロナ陽性とわかった時点で重症の肺炎となっており、わずか９日後に亡くなられました。濃厚接触者となって自宅待機をしていたお孫さん。入院したまま帰らなくなったお祖父ちゃんのことをどう受け止めているでしょうか。同じく高齢の奥さんも感染がわかり、夫とは別の病院に入院中、夫の訃報を聞いたのです。長年連れ添った夫にひと目会うことも叶わず、突然訪れた永遠のお別れ。この感染症の惨さに心が痛みました。ご家族にかける言葉がみつかりませんでした。

新型コロナウイルスは、本当に厄介で無情なウイルスだとつくづく思います。人とのコミュニケーションを奪い、人生で一度きりの貴い機会を奪い、日常を奪い、仕事を奪い、命を奪い…。

次々に発生する新規感染者の方への対応は、まだまだ続くものと思いますが、感染経路がどうであれ、ひとりひとりの患者さん、ご家族、接触者の方々の不安や戸惑いを受け止め、さらなる感染連鎖を引き起こさないため、地道に日々努めていきたいと思います。

メータオ・クリニックや国境周辺に、この感染の波がどうか押し寄せないでと心から祈っています。

↑通勤途中に撮影しました。四季折々の景色に癒されます。

編集後記

あっという間に年末。昨年の今頃は予想だにしなかった 2020 年が、終わろうとしています。見えないウィルス相手の戦いや、生活の変化に、だれもが不安やストレスを感じたことと思います。１年間、本当におつかれさまでした。来年は明るい１年になりますように！

次号の予定

次号は、2021 年 2 月中～下旬ごろ配信の予定です。
現地からの最新情報は、インスタ、ツイッター、ホームページでも、随時更新していきますのでぜひ、お時間があるときにご覧ください。

メータオ・クリニック支援の会(JAM)の活動を支援して下さり、心より御礼を申し上げます。JAM の活動は皆さまからの温かい寄付によって支えられ、院内感染予防活動、移民学校での啓発活動など様々なプロジェクト・設備投資を実施しています。
支援の輪が広がっていけるよう、どうぞ当会の Facebook もフォローして「いいね」や「リツイート」で応援してください。

当会では、都度の支援金の受け入れとともに、「1 日 10 円からの支援」を基本とし、継続的なご支援をお願いする賛助会員制度を用意しております。
【一般会員】3,650 円/年　　【学生会員】1,825 円/年　　【法人会員】36,500 円/年
当会ホームページにアクセスしていただき、お申し込みフォームから会員登録のうえ、指定の口座へのお振込をしていただきますと、賛助会員として登録させていただきます。詳しくは当会ホームページをご覧ください。

◇◆◇

ＮＰＯ法人メータオ・クリニック支援の会　　Japan Association for Mae Tao Clinic（JAM）

日本事務局宛て E メール	support@japanmaetao.org
JAM ウェブサイト	www.japanmaetao.org
Facebook	Japan Association for Mae Tao Clinic (JAM)　で検索して下さい。 https://www.facebook.com/JapanAssociationforMaeTaoClinic/
Instagram	https://www.instagram.com/japan_association_maetaoclinic/
Twitter	https://twitter.com/japanmaetao

※掲載されている全ての内容、文章の無断転載を禁止します。